

第4問

次の文章を読んで、後の問い(問1～7)に答えよ。なお、設問の都合で送り仮名を省いたところがある。(配点 50)

家蓄一老狸奴。將誕子矣。一

女童誤触之、而墮。日夕嗚嗚然。

会有下餽。兩小狸奴者。其始蓋漠

然不相能也。老狸奴者、從而撫

之_ヲ、徬_{ほう}徨_{くわう}焉_{えん}、躑_{てき}躑_{ちよく}焉_{えん}。臥_{スレバ}則_チ擁_シ之_ヲ、行_{ケバ}

則_チ翊_{たすく}之_ヲ。舐_{なメテ}其_ノ舐_{じよつ}而_ラ讓_ル之_ニ。食_ヲ。兩小

狸奴_{ナル}者_モ、亦_{また}久而_{シクシテ}相_ヒ忘_ル也。稍_{やうやく}即_{ツキ}之_ニ

遂_ニ⁽¹⁾承_レ其_ノ乳_ヲ焉_{えん}。自_レ是_レ欣_{きん}然_{ぜん}以_テ為_ス良_{まこと}

己_ノ之_ヲ母_{ナリト}。老_シ狸奴_{ナル}者_モ、亦_{また}居_ル然_{ぜん}以_テ為_ス

良_ニ己_ガ出_ダ也_ト^(b)。A
吁_{ああ}、亦_タ異_{ナル}哉_{かな}。

昔、漢_ノ明_ノ徳馬后_ニ無_シ子。顯宗_ノ取_リ

他_ノ人_{じん}子_シ、命_ジ養_{ハシ}之_メ。日_{ハク}、人子_ノ何必親

生_レ。但_ダ恨_ム愛_ス之_ヲ不_ル至_ラ耳_ト。后_ノ遂_ニ尽_{クシ}心_ヲ

撫_レ育_シ而_{シテ}章帝_モ亦_タ恩_ノ性_ノ天_ノ至_{タリ}。母_ノ子_ノ

慈孝、始終無_二纖^(注11)芥^{せん}之間。狸奴之

事、適⁽²⁾有_レ契^{かなフ}焉^(d)。然^{しかラバ}則_チ^C世之為人親

与_レ子、而有_二不慈不孝者、豈独愧_二

于古人。亦^タ愧^{はツル}此異類_二^(e)已_一。

(程敏政『篁墩文集』による)

(注)

1 狸奴——猫。

2 嗚嗚然——嘆き悲しんで鳴くさま。

3 漠然——無関心なさま。

4 傍徨焉、躑躅焉——うろつろしたり足踏みをしたりして、
落ち着かないさま。

5 翫——うぶ毛。

6 欣然——よろこぶさま。

7 居然——やすらかなさま。

8 明德馬后——後漢の第二代明帝(顯宗)の皇后。第三代章帝
の養母。

9 顕宗取_二他人子_一、命養_レ之——顕宗が他の妃きさきの子を引き取つて、明德馬后に養育を託したことをいう。

10 恩性天至——親に対する愛情が、自然にそなわっていること。

11 無_二織芥之間_一——わずかな隔たりさえないこと。

問1 39ページの傍線部(1)「承」・41ページの(2)「適」の意味として最も

適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つ

ずつ選べ。解答番号は

29

30

(1) 「承」

29

- ① 授けた
- ② 認識した
- ③ 納得した
- ④ 差し出した
- ⑤ 受け入れた

(2)

30

「適」



- ⑤
- ④
- ③
- ②
- ①

かならず
ほとんど
ちよつど
わずかに
ゆくゆく

問2 38ページの二重傍線部(ア)「将」・39ページの(イ)「自」と同じ読み方

をするものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つ

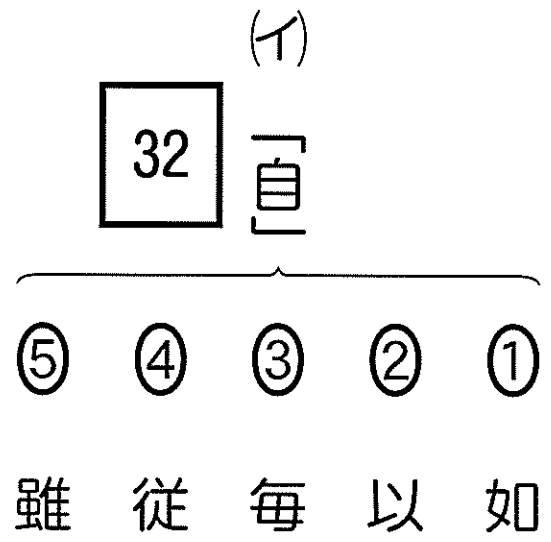
ずつ選べ。解答番号は

(ア)

「将」

⑤ ④ ③ ② ①

須 且 応 盍 当



問3 38ページの波線部(a)「矣」・40ページの(b)「也」・(c)「耳」・41ページ

の(d)「焉」・(e)「已」の説明の組合せとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

33。

① (a)「矣」は「かな」と読み、詠嘆の意味を添え、(b)「也」は「なり」と読み、断定の意味を添える。

② (a)「矣」は「かな」と読み、感動の意味を添え、(e)「已」は「のみ」と読み、限定の意味を添える。

③ (b)「也」は「なり」と読み、伝聞の意味を添え、(c)「耳」は「のみ」と読み、限定の意味を添える。

④ (c)「耳」は「のみ」と読み、限定の意味を添え、(d)「焉」は文末の置き字で、断定の意味を添える。

⑤ (d)「焉」は文末の置き字で、意志の意味を添え、(e)「已」は「のみ」と読み、限定の意味を添える。

問4 40ページの傍線部A「吁、亦異哉」とあるが、筆者がそのように述べる理由の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 34。

- ① 子猫たちと出会った時は「嗚嗚然」としていた老猫が、「欣然」と子猫たちと戯れる姿を見せるようになったため。
- ② 互いに「漠然」として親子であることを忘れていた猫たちが、最後には「居然」と本来の関係をとりもどしたため。
- ③ 老猫と出会った初めは「漠然」としていた子猫たちが、ついには「欣然」と老猫のことを慕うようになったため。

④ 子猫たちが「居然」として老猫になつき、老猫も「嗚嗚然」たる深い悲しみを乗り越えることができたため。

⑤ 子猫たちが「欣然」と戯れる一方で、老猫は「居然」たるさまを装いながらも深い悲しみを隠しきれずにいるため。

問5 40ページの傍線部B「人子何必親生」の解釈として最も適

当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

35

- ① 子というものは、いつまでも親元にいるべきではない。
- ② 子というものは、必ずしも親の思い通りにはならない。
- ③ 子というものは、どのようなにして育ててゆけば良いのか。
- ④ 子というものは、自分で産んだかどうかが大事なのではない。
- ⑤ 子というものは、いつまでも親の気を引ききたいものだ。

問6 41ページの傍線部C「世之為人親与子、而有不慈不孝者、豈独愧于古人」の書き下し文として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 36。

- ① 世の人親じんしんと子との為にして、不慈不孝なる者有るは、豈に独り古人のみを愧はづかしめんや
- ② 世の人親の子に与ふと為すも、不慈不孝なる者有るは、豈に独り古人に愧づるのみならんや
- ③ 世の人親の子に与ふるが為に、不慈不孝なる者有るは、豈に独り古人のみを愧づかしめんや

④ 世の人親と子との為にするも、不慈不孝なる者有るは、豈に独り古人のみを愧づかしめんや

⑤ 世の人親と子と為りて、不慈不孝なる者有るは、豈に独り古人に愧づるのみならんや

問7 この文章全体から読み取れる筆者の考えの説明として最も適当

なもの、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

37

① 猫の親子でも家族の危機を乗り越え、たくましく生きてい
る。悲嘆のあまり人間本来の姿を見失った親子も、古人が言
うように互いの愛情によって立ち直ると信じたいものだ。

② 血のつながらない猫同士でさえ実の親子ほどに強く結ばれ
ることがある。人でありながら互いに愛情を抱きあえない親
子がいることは、古人はおろか猫の例にも及ばないほど嘆か
わしいものだ。

③ 子猫たちとの心あたたまる交流によっても、ついに老猫の悲しみは癒やされることはなかった。我が子を思う親の愛情は、古人が示したように何にもたえようがないほど深いものだ。

④ 老猫は子猫たちを憐れあわんで献身的に養育し、子猫たちも心から老猫になつく。その一方で、古人のように素直になれず、愛情がすれ違ふ昨今の親子を見ると、誠にいたたまれなくなるものだ。

⑤ もらわれてきた子猫でさえ老猫に対して孝心を抱く。これに反して、成長しても肉親の愛情に恩義を感じない子がいることは、古人に顔向けできないほど恥ずかしいものだ。